

5

臨海部から内陸部へ移りゆく工場

○臨海部から発達した京浜工業地帯

- (**):東京都・神奈川県・埼玉県にまたがる日本有数の工業地帯
- 東京：新聞社や出版社が多く、印刷業が盛ん

東京都や周辺の県：大消費地であり、飲料やパン・生菓子などの食品工業が盛ん

東京の中心部の周辺：古くからの工業が残り、住宅地に町工場が点在

東京湾岸の埋立地：製鉄所や火力発電所、物流倉庫などが立地

→千葉県の臨海部は(**)といわれ、石油化学コンビナートが並ぶ

＜京浜工業地帯と京葉・北関東工業地域の工業出荷額の内訳(2017)＞

	鉄鋼・金属	化学	機械	食品	繊維	その他
京浜工業地帯 39.7 兆円	10.1%	20.0%	45.5%	12.4%	0.5%	11.5%
京葉工業地域 12.2 兆円	21.5	42.7	13.1	15.8	0.2	6.7
北関東工業地域 30.7 兆円	13.9	17.0	45.0	15.5	0.6	8.0

東京大都市圏の人口：高度経済成長期以降、日本各地から移住が進み増加

→市街地が拡大し、工業用地の不足や公害などが発生

- 機械工業：八王子市（東京）や藤沢市・相模原市（神奈川）などへ移転が進む

化学・鉄鋼などの工業：工場の閉鎖や移転が進み、海外に拠点を移す工場も増加
- 跡地の再開発により、企業のオフィスや研究所、商業施設として利用

○北関東への工場進出と流通の変化

北関東（栃木・群馬・茨城）：繊維工業や航空機産業が盛んな地域

- 工業団地を造り、工場を積極的に誘致
- 電気機械の大工場や中小工場も進出し、内陸型の(**)が形成

北関東工業地域：電気機械や自動車などの工業が発達

→高速道路の近くに多くの工場が集まる

- 自動車関連の工場：外国籍の日系人も多く働く

工業製品の輸出：以前は東京港や横浜港から輸出
- 2011 年に北関東自動車道が全線開通し、茨城港からの輸出も増加